

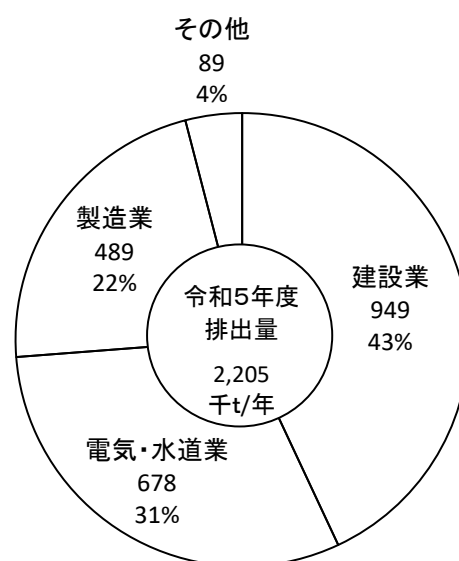
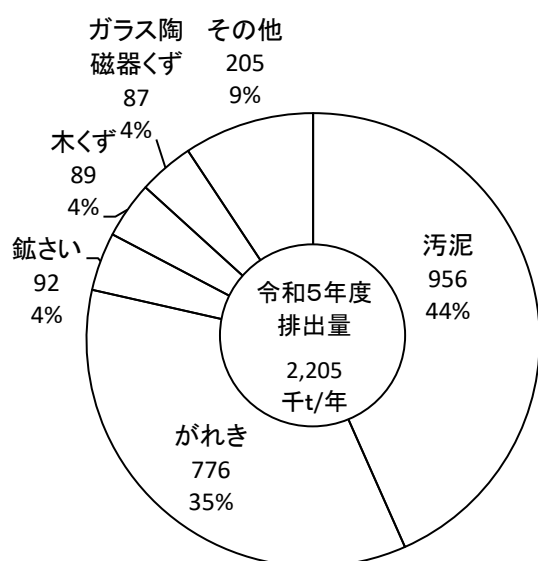
産業廃棄物の処理状況

1 令和5年度の産業廃棄物の排出量

令和5年度の1年間に岩手県内で排出された産業廃棄物の排出量は2,205千トンとなっており、種類別にみると、汚泥が956千トン(44%)で最も多く、次いで、がれき類が776千トン(35%)となっており、この2種類で全体の79%を占めている。(図1)

業種別にみると、建設業が949千トン(43%)で最も多く、以下、電気・水道業が678千トン(31%)、製造業が489千トン(22%)となっており、この3業種で全体の96%を占めている。(図2.2)

排出量を種類別、業種別にみると表1のとおりである。



※図中の千t表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

図1 産業廃棄物の種類別の排出量

図2 産業廃棄物の業種別の排出量

表 1 産業廃棄物の種類別、業種別の排出量（令和 5 年度）

(単位：千t/年)

業種 種類	合計	鉱業	建設業	製造業	電気・水道 業	情報通 信業	運輸業	卸・小 売業	飲食 店、宿 泊業	医療、 福祉	教育、 学習支 援業	複合 サービ ス業	サービ ス業	その他 の業種
合計	2,205 (100%)	12 (1%)	949 (43%)	489 (22%)	678 (31%)	3 (0%)	2 (0%)	4 (0%)	0 (0%)	8 (0%)	0 (0%)	1 (0%)	49 (2%)	9 (0%)
燃え殻	15 (1%)		1	7	6		0	0	0	0			1	0
汚泥	956 (43%)	12	22	241	660	0	0	1	0	2	0	1	15	3
廃油	13 (1%)		1	10	0	0	0	0	0	0	0		2	0
廃酸	8 (0%)		0	7	0	0	0	0		0	0	0	1	0
廃アルカリ	11 (1%)		0	10	0	0	0	0		0	0	0	1	0
廃プラスチック類	59 (3%)	0	16	18	0	0	1	1	0	2	0	0	18	2
紙くず	4 (0%)		3	0		0								
木くず	89 (4%)		86	3		0								0
繊維くず	1 (0%)		1											
動植物性残さ	15 (1%)			15										
動物系固形不要物	1 (0%)			1										
ゴムくず	0 (0%)		0	0									0	0
金属くず	12 (1%)		4	1	0	0	0	0	0	0	0		5	0
ガラス陶磁器くず	87 (4%)	0	26	50	2	2	0	1	0	0	0		4	2
鉱さい	92 (4%)		0	91										
がれき類	776 (35%)		773	3		0	0							
ばいじん	37 (2%)		1	26	11					0			0	
動物の死体	3 (0%)			1						0		1	0	2
その他	27 (1%)	0	16	5	0	0	0	0	0	3	0	0	2	1

※表中の千 t 表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

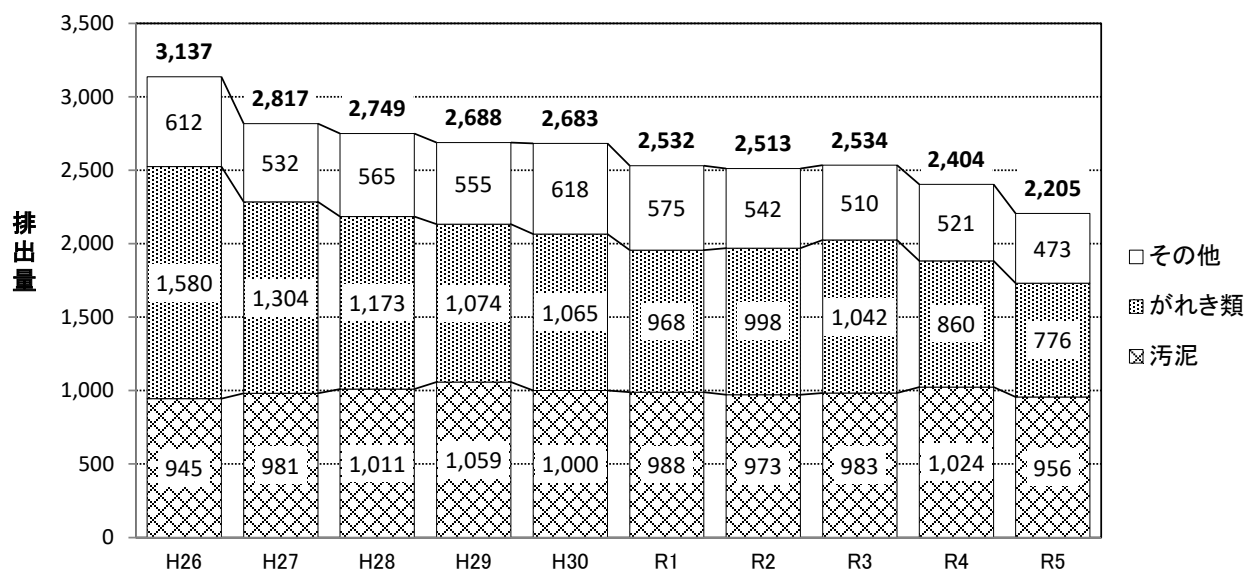
〔参考〕 産業廃棄物の種類別、業種別の排出量（令和 4 年度）

(単位：千t/年)

業種 種類	合計	鉱業	建設業	製造業	電気・水道 業	情報通 信業	運輸業	卸・小 売業	飲食 店、宿 泊業	医療、 福祉	教育、 学習支 援業	複合 サービ ス業	サービ ス業	その他 の業種
合計	2,404 (100%)	5 (0%)	1,075 (45%)	534 (22%)	696 (29%)	3 (0%)	3 (0%)	8 (0%)	1 (0%)	7 (0%)	0 (0%)	6 (0%)	54 (2%)	11 (0%)
燃え殻	17 (1%)		1	9	6		0	0	0	0			1	0
汚泥	1,024 (43%)	5	84	230	677	0	0	1	0	1	0	6	15	5
廃油	16 (1%)	0	1	10	0	0	0	3	0	0	0		2	0
廃酸	8 (0%)		0	6	0	0	0	0		0	0	0	1	0
廃アルカリ	10 (0%)		0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
廃プラスチック類	58 (2%)	0	17	14	0	0	1	2	0	2	0	0	20	2
紙くず	3 (0%)		2	1		0								
木くず	111 (5%)		77	31			0	0					2	0
繊維くず	1 (0%)		1										0	
動植物性残さ	16 (1%)			16										
動物系固形不要物	1 (0%)			1										
ゴムくず	0 (0%)		0	0									0	
金属くず	11 (0%)	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
ガラス陶磁器くず	108 (5%)	1	26	68	1	2	1	1	0	0	0	0	5	2
鉱さい	101 (4%)		0	101							0		0	
がれき類	860 (36%)		860											
ばいじん	48 (2%)		0	36	11								0	
動物の死体	3 (0%)			1						0			1	1
その他	9 (0%)	0	1	1	0	0	0	0	0	4	0		2	0

※表中の千 t 表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

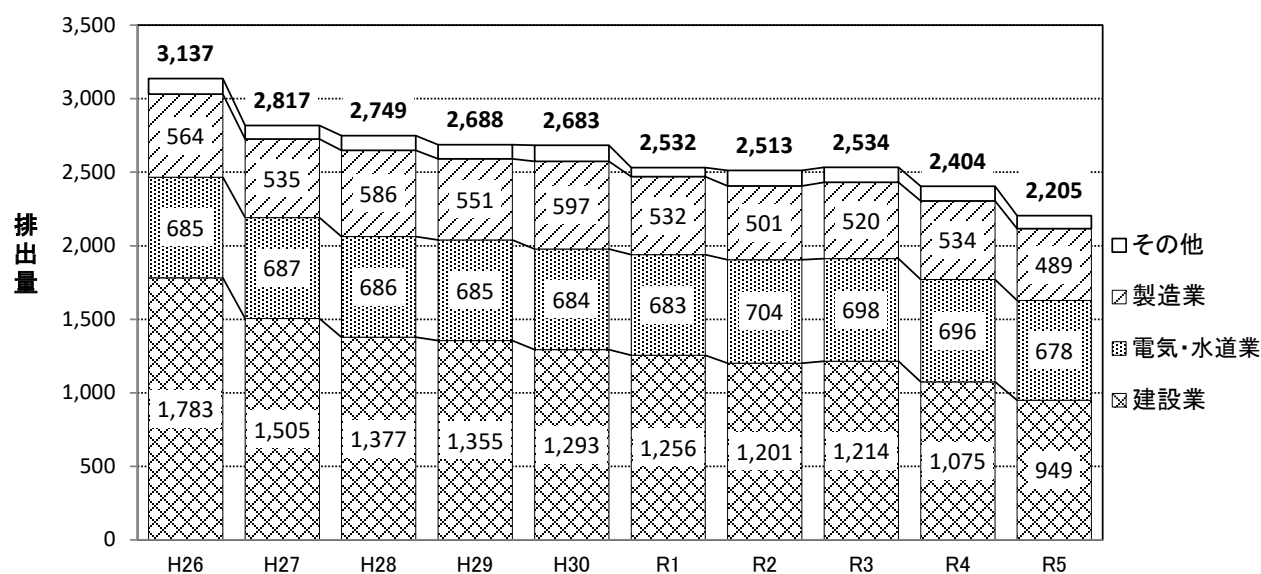
(千t/年)



※図中の千t表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

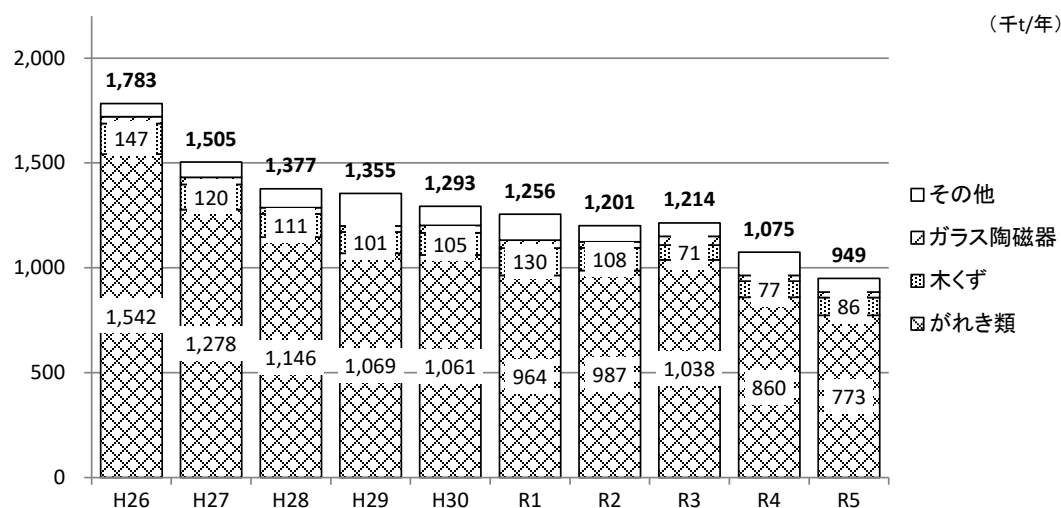
図3 排出量（種類別）の推移

(千t/年)



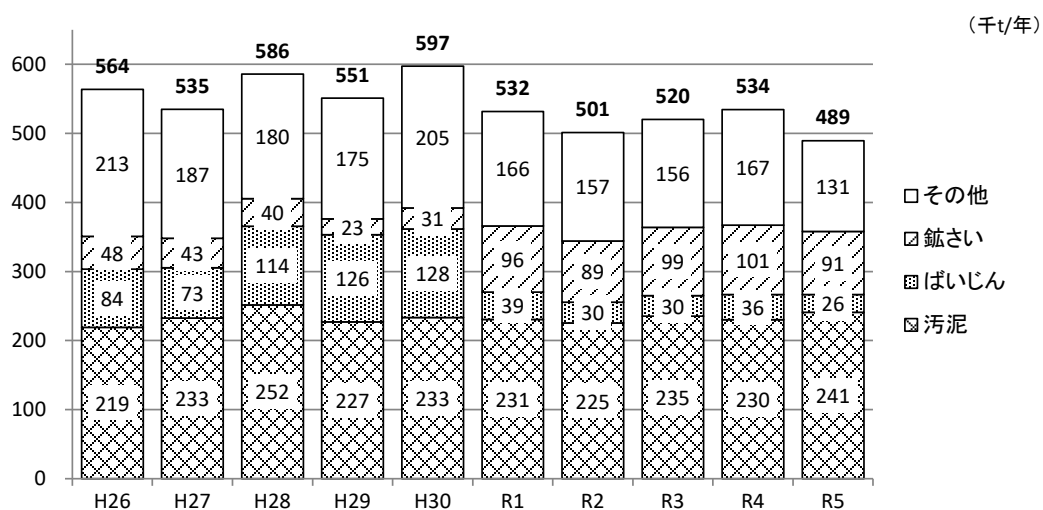
※図中の千t表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

図4 排出量（業種別）の推移



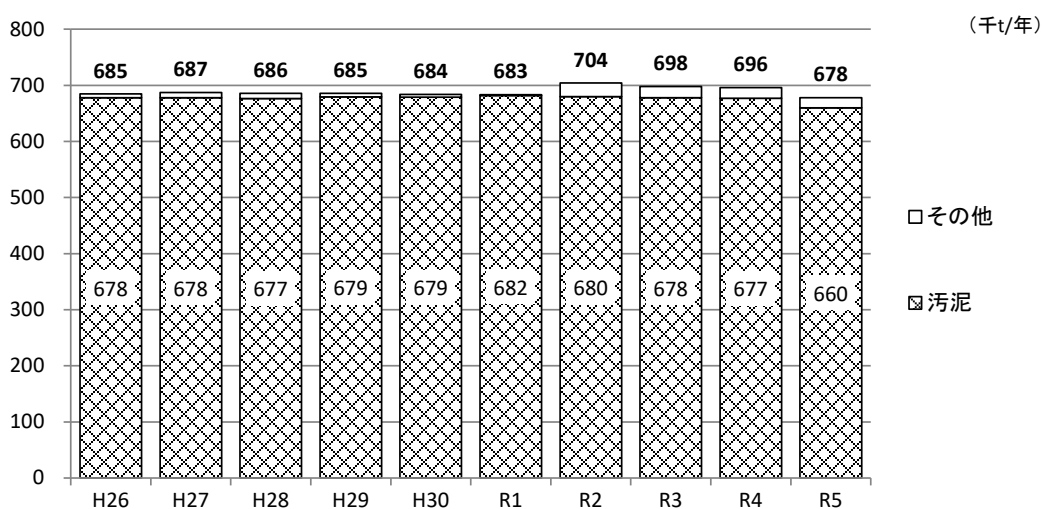
※図中の千t表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

図5 建設業の排出量の推移



※図中の千t表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

図6 製造業の排出量の推移



※図中の千t表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

図7 電気・水道業の排出量の推移

排出量を地域別にみると、盛岡地域が 728 千トン（33%）で最も多く、次いで、岩手中部地域が 552 千トン（25%）、両磐地域が 214 千トン（10%）、胆江地域が 211 千トン（10%）、釜石地域が 113 千トン（5%）、気仙地域が 104 千トン（5%）、宮古地域が 96 千トン（4%）、久慈地域が 96 千トン（4%）、二戸地域が 92 千トン（4%）となっている。（表 2.2、図 2.8）

なお、4 地域区分（広域）でみると表 2.3 のとおりである。

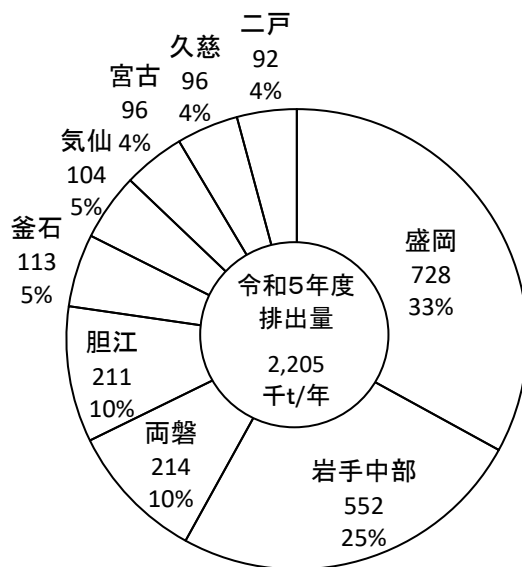


図 8 地域別の排出量

表 2 産業廃棄物の地域別の排出量（令和 5 年度）

（単位：千t/年）

	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石	宮古	久慈	二戸	合計
建設業	374	202	100	80	36	48	53	27	29	949
製造業	50	194	59	68	8	42	5	42	20	489
電気・水道業	268	137	42	60	55	20	33	24	39	678
その他の業種	36	20	10	7	4	3	4	2	4	89
合計	728 (33%)	552 (25%)	211 (10%)	214 (10%)	104 (5%)	113 (5%)	96 (4%)	96 (4%)	92 (4%)	2,205 (100%)

※表中の千 t 表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

表 3 産業廃棄物の広域別の排出量（令和 5 年度）

（単位：千t/年）

	盛岡広域	県南広域	沿岸広域	県北広域	合計
建設業	374	382	138	56	949
製造業	50	320	56	63	489
電気・水道業	268	239	108	63	678
その他の業種	36	36	11	6	89
合計	728 (33%)	977 (44%)	313 (14%)	188 (9%)	2,205 (100%)

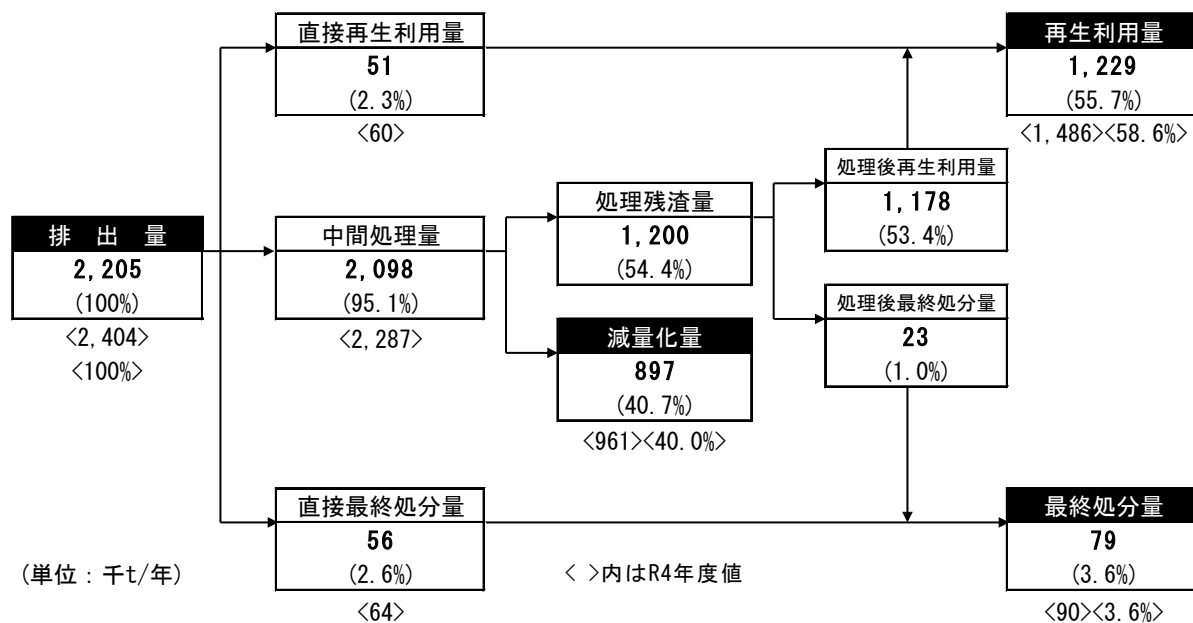
※表中の千 t 表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

2 令和5年度の産業廃棄物の処理状況

令和5年度における産業廃棄物の処理状況をみると、排出量2,205千トンのうち、95.1%に当たる2,098千トンが中間処理量となっている。この中間処理により897千トン（40.7%）が減量されている。

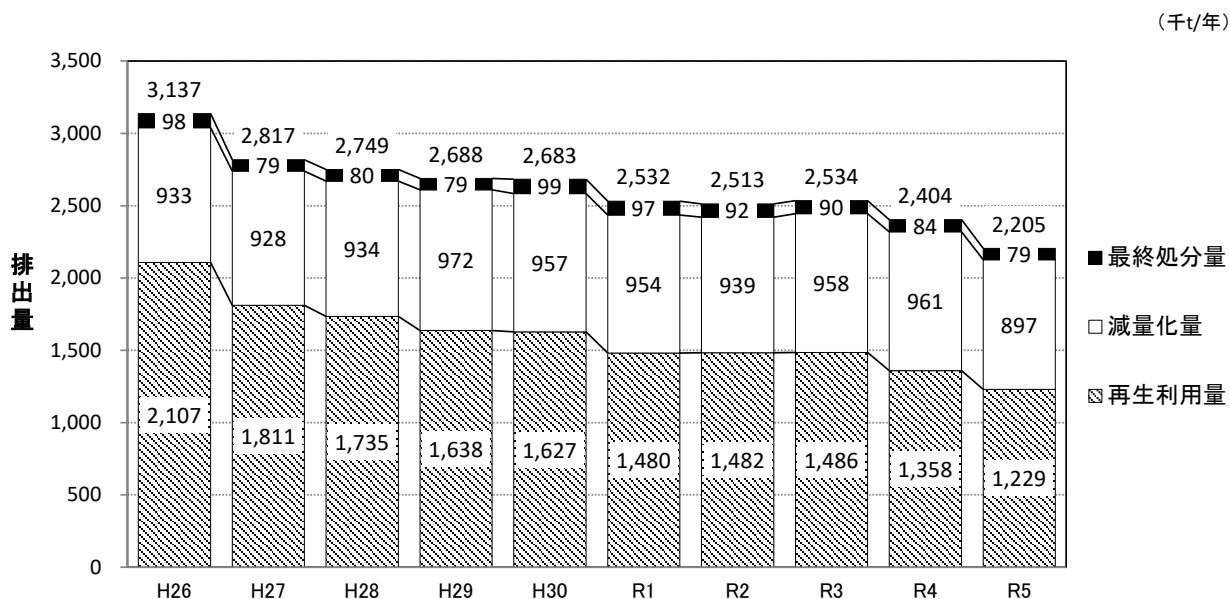
再生利用量は、排出量の55.7%に当たる1,229千トン、最終処分量は79千トンで、排出量の3.6%となっている。（図9）

種類別の処理状況は、図11のとおりである。



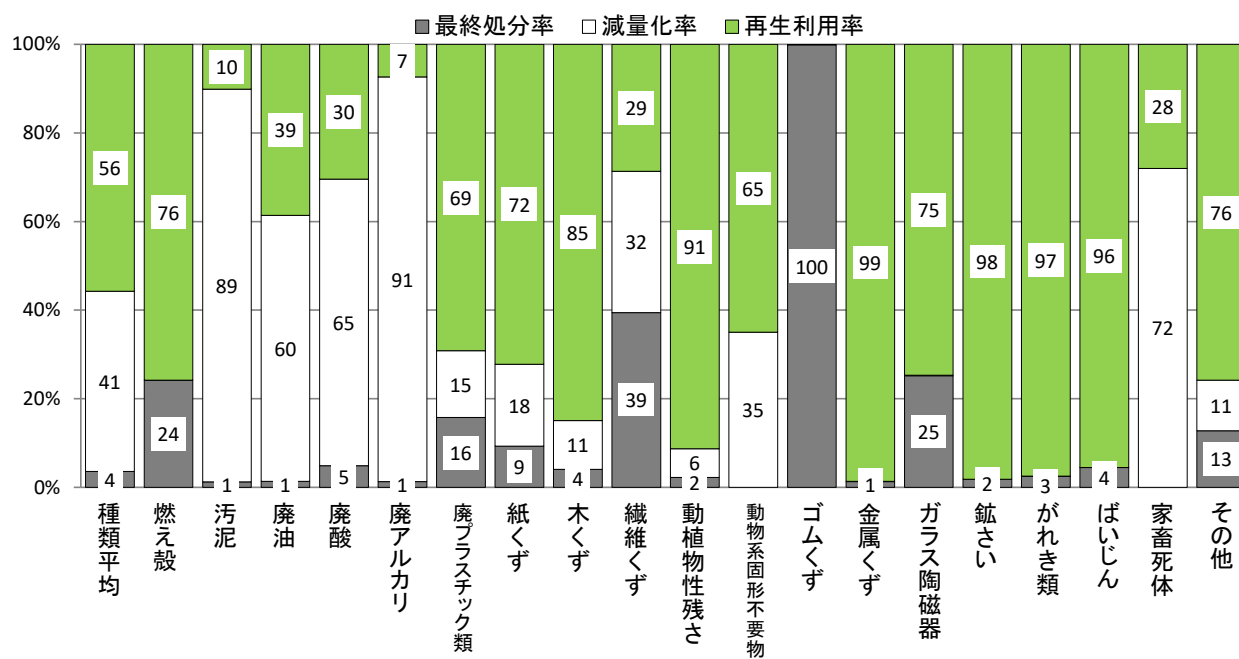
※図中の千t表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

図9 令和5年度の産業廃棄物の処理状況



※図中の千t表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

図10 処理量の推移

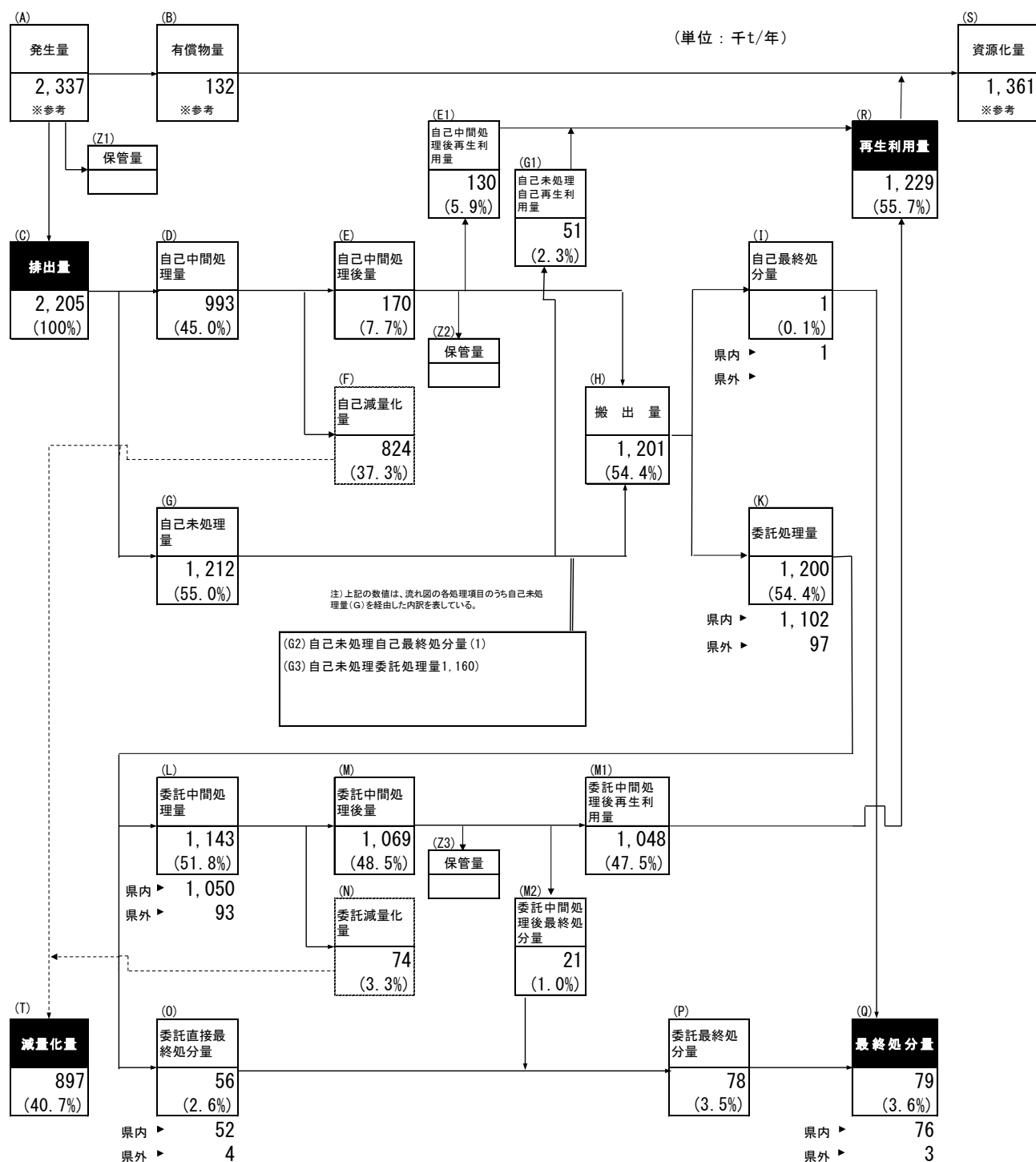


※種類は、中間処理による変化する前の種類で集計したもの。

※図中の構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

図 11 令和 5 年度の産業廃棄物の種類別の処理状況

令和 5 年度における産業廃棄物の処理状況を詳細にみると、図 12 のとおりである。



※図中の千t表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

図 12 令和 5 年度の産業廃棄物の排出・処理状況

3 産業廃棄物の排出・処理状況

(1) 排出量

令和5年度の1年間に岩手県内で排出された産業廃棄物の排出量は2,205千トンとなっており、種類別にみると、汚泥が956千トン(44%)で最も多く、次いで、がれき類が776千トン(35%)となっており、この2種類で全体の79%を占めている。(図5.1)

排出量を種類別、業種別にみると表5.1のとおりである。

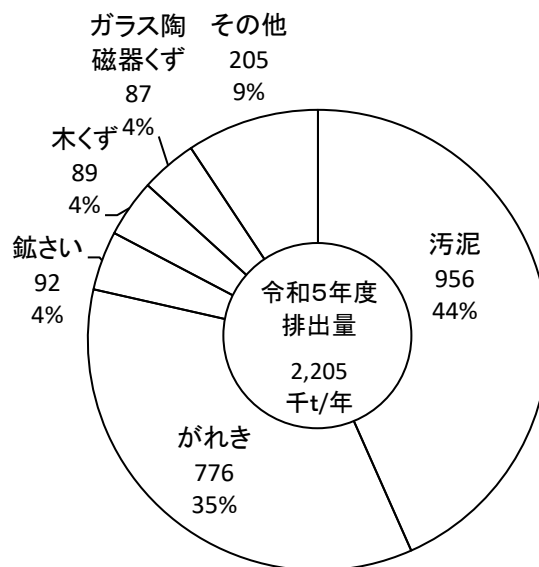


図13 産業廃棄物の種類別の排出量

表4 産業廃棄物の種類別、業種別の排出量

(単位:千t/年)

業種 種類	合計	鉱業	建設業	製造業	電気・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	飲食店、宿泊業	医療、福祉	教育、学習支援業	複合サービス業	サービス業	その他の業種
合計	2,205 (100%)	12 (1%)	949 (43%)	489 (22%)	678 (31%)	3 (0%)	2 (0%)	4 (0%)	0 (0%)	8 (0%)	0 (0%)	1 (0%)	49 (2%)	9 (0%)
燃え殻	15 (1%)		1	7	6		0	0	0	0			1	0
汚泥	956 (43%)	12	22	241	660	0	0	1	0	2	0	1	15	3
廃油	13 (1%)		1	10	0	0	0	0	0	0	0		2	0
廃酸	8 (0%)		0	7	0	0	0	0		0	0	0	1	0
廃アルカリ	11 (1%)		0	10	0	0	0	0		0	0	0	1	0
廃プラスチック類	59 (3%)	0	16	18	0	0	1	1	0	2	0	0	18	2
紙くず	4 (0%)		3	0		0								
木くず	89 (4%)		86	3		0								0
繊維くず	1 (0%)		1											
動植物性残さ	15 (1%)			15										
動物系固形不要物	1 (0%)			1										
ゴムくず	0 (0%)		0	0									0	0
金属くず	12 (1%)		4	1	0	0	0	0	0	0	0		5	0
ガラス陶磁器くず	87 (4%)	0	26	50	2	2	0	1	0	0	0		4	2
鉱さい	92 (4%)		0	91										
がれき類	776 (35%)		773	3		0	0							
ばいじん	37 (2%)		1	26	11					0			0	
動物の死体	3 (0%)			1						0		1	0	2
その他	27 (1%)	0	16	5	0	0	0	0	0	3	0	0	2	1

※図中の千t表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

(2) 再生利用量

令和5年度の1年間に岩手県内で排出された産業廃棄物の再生利用量は1,229千トンとなっており、種類別にみると、がれき類が756千トン(59%)で最も多く、次いで、木くずが75千トン(6%)、以下、鉋さい67千トン(5%)、ガラス陶磁器くず65千トン(5%)、汚泥48千トン(4%)等となっている。(図5.2)

再生利用量を種類別、業種別にみると表5.2のとおりである。

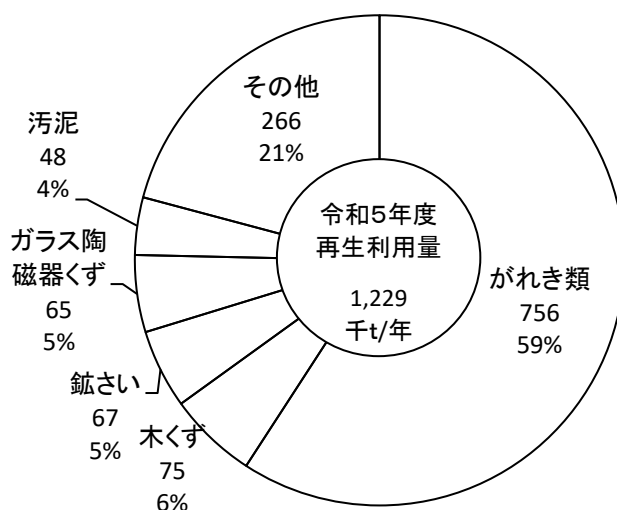


図14 産業廃棄物の種類別の再生利用量

表5 産業廃棄物の種類別、業種別の再生利用量

(単位: 千t/年)

業種	合計	鉱業	建設業	製造業	電気・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	飲食店、宿泊業	医療、福祉	教育、学習支援業	複合サービス業	サービス業	その他の業種
種類	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計
合計	1,229 (100%)	4 (0%)	880 (72%)	276 (22%)	24 (2%)	3 (0%)	1 (0%)	3 (0%)	0 (0%)	2 (0%)	0 (0%)	1 (0%)	29 (2%)	5 (0%)
燃え殻	90 (7%)		5	70	9	0	0	1	0	0	0	0	4	1
汚泥	48 (4%)	4	7	27	4	0	0	0	0	1	0	0	4	1
廃油	4 (0%)		0	3	0	0	0	0	0	0	0		1	0
廃酸	2 (0%)			2			0	0		0		0	0	0
廃アルカリ	1 (0%)		0	0			0	0		0		0	0	0
廃プラスチック類	36 (3%)	0	10	11	0	0	0	1	0	0	0	0	12	1
紙くず	3 (0%)		3	0										
木くず	75 (6%)		74	1		0								0
繊維くず	0 (0%)		0											
動植物性残さ	14 (1%)			14										
動物系固形不要物	0 (0%)			0										
ゴムくず	0 (0%)			0										
金属くず	11 (1%)		4	1	0	0	0	0	0	0	0		5	0
ガラス陶磁器くず	65 (5%)	0	8	48	2	2	0	1	0	0	0		1	1
鉋さい	67 (5%)		0	67										
がれき類	756 (62%)		754	2		0	0							
ばいじん	35 (3%)		0	25	10									
動物の死体	1 (0%)			0						0		0	0	0
その他	20 (2%)	0	14	4	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0

※図中の千t表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

*種類は、中間処理により変化した種類で集計したもの。

(3) 最終処分量

令和5年度の1年間に岩手県内で排出された産業廃棄物の最終処分量は79千トンとなっており、種類別にみると、ガラス陶磁器くずが22千トン(25%)で最も多く、次いで、がれき類が20千トン(23%)、以下、汚泥が12千トン(13%)、廃プラスチック類が8千トン(11%)等となっている。(図5.3)

最終処分量を種類別、業種別にみると表5.3のとおりである。

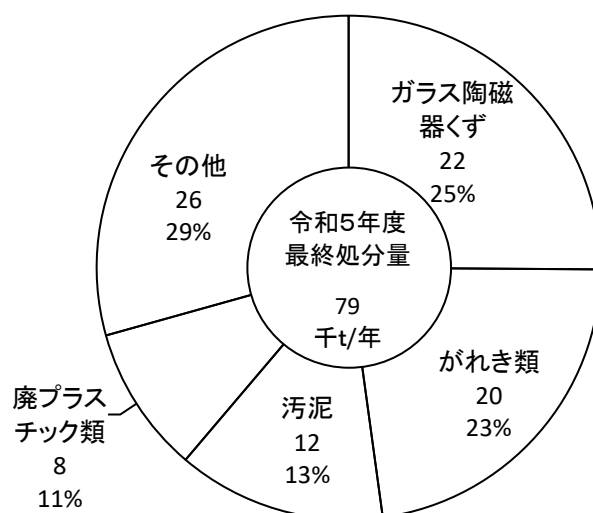


図15 産業廃棄物の種類別の最終処分量

表6 産業廃棄物の種類別、業種別の最終処分量

(単位: 千t/年)

(単位：千t/年)														
業種 種類	合計	鉱業	建設業	製造業	電気・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	飲食店、宿泊業	医療、福祉	教育、学習支援業	複合サービス業	サービス業	その他の業種
合計	79 (100%)	0 (0%)	51 (65%)	16 (20%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	9 (11%)	1 (1%)
燃え殻	7 (8%)	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
汚泥	12 (15%)		3	6	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
廃油														
廃酸														
廃アルカリ														
廃プラスチック類	8 (10%)	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
紙くず	0 (0%)		0			0								
木くず	3 (4%)		3	0										
繊維くず	0 (0%)		0											
動植物性残さ	0 (0%)			0										
動物系固形不要物														
ゴムくず	0 (0%)		0	0									0	0
金属くず	0 (0%)		0	0		0	0	0	0				0	0
ガラス陶磁器くず	22 (28%)	0	17	2	0	0	0	0	0	0	0		3	0
鉱さい	2 (2%)		0	1										
がれき類	20 (25%)		19	1										
ばいじん	2 (2%)		0	1	1					0			0	
その他	3 (4%)	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

※図中の千t表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

*種類は、中間処理により変化した種類で集計したもの。